

「こどもかいぎ」対話する力

子供の声を聴く

輪になって座り、答えのない問いについて対話する。経験を重ねる中で、自分の気持ちや他人の気持ちを知ったり大切にしたり、多様性を尊重する感性が育っている。接する保育者にとっても、子供たちの世界や心の内を知り、大人と子供の相互理解が深まったと感じる。



「考えるのが楽しい」「自分と違う意見も知るから楽しい」



<どうして生まれてきたんだろう？>
 「ママとパパに会いたかったから」
 「早く行かなきゃって！」
 「お腹の中は赤色だったよ」



<ママはどんな時に嬉しいと思う？>
 「コーヒー飲むとき」
 「大好き、ありがとうって言ったとき」
 「わたしが嬉しかったから」



<雨と雷どっちが好き？>
 「雨！水たまりであそべるから！」
 「傘に落ちる雨の音が好き」
 「雷、ゴロゴロの音が好き！」

認定こども園 わかば幼稚園

なんでもやってみよう

食べ物の大切さを知ろう

お米の栽培

体験を通して、主食であるお米は、どんな過程を経て、食卓に出されるのかを学んでいる。

年長児は、5月にもみ蒔きをして苗を育て6月に田植え、8月にお米の開花を観察し、10月に刈り取り、収穫祭で炊いて食べ、食べ物への関心・大切さを、友達と共有する。



味噌作り体験

3・4歳児は、大豆をポットに蒔き苗を作り畑に植え、その大豆も使って、友達と協力しながら、味噌挽（みそひき）を回し、味噌作りの体験をする。



0・1・2歳児もさつまいもの栽培を体験する。



自ら考え、よりよく生きようとする心豊かな児童の育成

～互いに伝え合い、考えを認め合う道徳の授業づくりを通して～

研究の概要

1. 自分との関わりの中で考え、互いに伝え認め合う活動を充実させた道徳の授業
2. 教育活動全体で道徳教育の推進活動

Point ① 自分との関わりの中で考えることを大切にする

自分事として考える教材提示



黒板シアターで教材提示を行い、前後で教材を分けて考えさせることで、子供たちに興味関心をもたせながら、登場人物の気持ちに自我関与させる。

価値に迫る導入

子供たちの身近な出来事や事前アンケートを活用して、本時のねらいへの問題意識を高める。



多面的・多角的な発問

自我関与を大切にしながら、答えが一つではない発問をする。

まとめ

終末は自分の生活に戻り、自分なりの納得解をもてるようにする。



Point ② 自己や他者の考えのよさに気付く

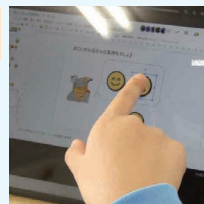
役割演技

自分だったらどうするか、自分の言葉で表現する。



フェイスマーク

どの子も登場人物の気持ちを表すことができる。



1枚ポートフォリオ



学習の振り返りを蓄積し、1年間の子供の変容を見取る評価として活用。全学年で使用している。

ペア・グループでの交流



考えの変容

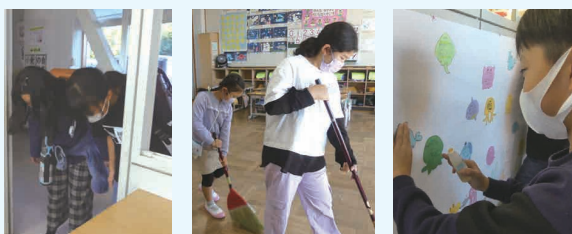
導入と終末でテキストマイニングを用いて、道徳的価値の変容を全体でも個でも見取る。



Point ③ 心豊かな しののめっ子を目指して

児童会活動

- ・全校あいさつ運動
- ・もくもく清掃
- ・感謝の気持ちを伝え合う「ハッピー水族館」



自然愛護

- ・学校内の「自然の杜」を活用
- ・うさぎの世話やふれあい



保護者・地域との関わり

- ・授業参観で全校道徳を実施
- ・育てた菊を、地域の方々へ配付



主体的・対話的で深い学びの実現

～授業改善と「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して～

研究の概要

1. 4人グループやICTを活用した意見交換
2. 「学びの記録」を活用した振り返り

Point ① 4人グループやICTを活用した意見交換

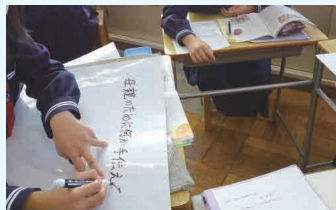
1年生：「バスと赤ちゃん」 2年生：「キャッチボール」を教材とした道徳の授業づくり

深い学びへ向けた4人グループでの話し合い

「アナウンスするまでに、運転手はどんなことを考えていたろう」

個人でじっくり考え、できる限りワークシートに考えを書く。

グループで再検討し、ホワイトボードに話し合ったことをまとめる。

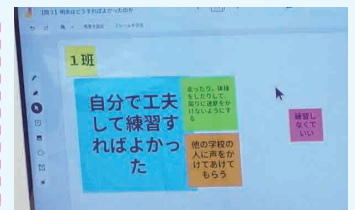


意見交換及び意見集約しやすくする Google Jamboard の活用

・キャッチボールをするかしないかを表したハートメーターを集約し、クラス全体の様子を表示。



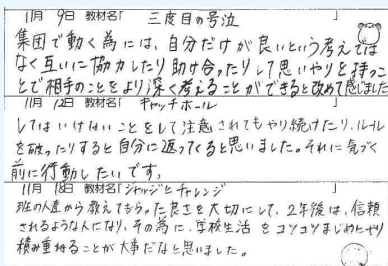
・明夫はどうすればよかったかについて、個で考えグループで話し合う。共感できる考えは大きく強調して表示。



Point ② 「学びの記録」を活用した振り返り

授業を通して感じたことや考えたことを「学びの記録」にまとめ、次へとつなげられるようにしている。

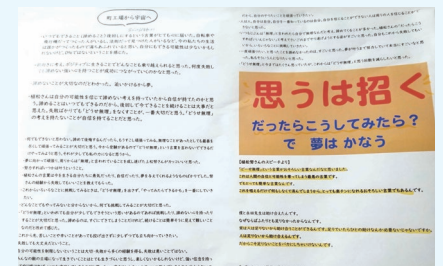
「学びの記録」 (1枚ポートフォリオ)



「学びの記録」を 活用することで・・・

- ・自分の学びの足跡を残すことができる。
- ・自分自身の変容を捉えることができる。
- ・教師はこれまでの学習状況を把握し、成長の様子を評価することができる。

「学びの記録」の廊下掲示



Point ③ 道徳教育の充実

学びを支える学級力向上 (学級力向上プロジェクトの実践)



道徳的実践活動 (公民館や施設への花の進呈) (朝の美化活動・落ち葉掃き)



保護者への道徳授業公開 (5月・11月のオープンスクール)



主体的に考え、ともに学び合う児童の育成

～「考え、交流し合う道徳」の授業づくりを通して～

研究の概要

1. 「考え、交流し合う道徳」の授業づくり
2. 教育活動全体を通じた道徳的実践活動の推進

Point ① 問題解決的な学習を取り入れた授業づくり

見通す(導入)

考える(展開)

交流し合う(展開)

深める(まとめ)

道徳的価値を自分自身との関わりで捉えさせるための導入や教材提示の工夫

道徳的価値に対して自分なりの考えがもてるような主発問や問い返しの工夫

多面的・多角的な考えに触れさせるための手立てや交流方法の工夫

授業で考えたことの整理、教材を離れ、自分事として生活での実践などについて考えさせるための工夫

【事前アンケートの活用】

1年『ダメ!』
「あなたは、ともだちにいやなことをされたときに、やめてといえなかったことはありますか。」

5年『銀のしょく台』
「あなたは人を許したことがありますか。」

【めあての提示】

「いやだな、やめてほしいなおもったときに どうしたらいいのかな。」

「許す気持ちについて考えよう。」

【教材提示の工夫】

大型テレビでの挿絵の提示



長文教材の事前読みと登場人物、内容把握

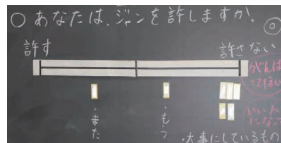
【ねらいに迫ることができる主発問】

「もしあなたがりすくんだったら、くまくんにダメといえますか。」

「司教はどんな気持ちでジャンに銀のしょく台を渡したのでしょうか。」

【心メーター】

自分の考えを明確にし、友達の考えを知る。



【書く活動】



【ペア・グループの活用】

話し合いの形態
自由な立ち歩き



【ICT・ネームプレート・大型付箋の活用】

考えや立場、個々の変容を視覚化



【児童の発言を受けて、問題意識を引き出す問い返し、揺さぶり】

意見の相違、現実とのズレ、矛盾からの問い返し

【事前アンケートの活用】

実生活を想起させ、自分事として考える。

【自分事として考えるための発問】

「いやだな、やめてほしいなおもったときにどうするか、りすくんにつたえよう。」

「司教の行動から学んだことや、自分の生活に生かしていきたいことを書きましょう。」

【板書の工夫】

児童の思考や授業の流れを視覚化



【ワークシートの工夫】

書くことの精選、吹き出し、挿絵

Point ② 学習環境の充実、道徳的実践活動の推進

学級集団づくり

【安心して学び合える学級集団づくり】



【Q-Uの活用】

全校でQ-Uを実施。居心地のよい学級づくりのため、児童一人一人への配慮に役立っている。

言語活動・読書活動の充実

【心の広場】・心があたたかくなる言葉
・友達の良いところ発見など



【図書集会・しおりデザインコンテスト】

たくさんの本と出会い、豊かな心を培う。



家庭・地域との連携

【三世代交流会】

父母、祖父母との交流



【ボランティアによる読み聞かせ】

道徳科の趣旨を踏まえた授業改善

～中心的な問いと生徒相互の意見交流に視点を当てて～

研究の概要

1. 自分のこととして考えるための中心的な問いの工夫
2. 生徒相互の意見交流の工夫

Point ① 問いの工夫：「何を考えさせるのか」を明確にする



- ・考える視点を明確化する。
- ・考えるに値する問いを創造する。

自分と向き合い考える。

Point ② 意見の交流を通して、自分の考えを深める



自分のこととして考えることで、意見交流の意義が生まれる。
意見の交流を通して、生徒自身が納得解を見付ける。

I C T機器も活用し
交流を深める。

Point ③ 道徳の授業での学びと他教科での学びとの往還



いのちについて考え
自分の体の変化や
精一杯生きることに
ついて考える。



冒険家から、夢をもつことの
大切さや、今、普通だと思う
ことが貴重であることなどを
学ぶ。

体験的な学びを通して、伝統や文化に
ついて考える。